

ここは人間のすごく良い部分が引き出される空間。だから、ここに来る人は、みんな良い表情になるのではないだろうか。そして、その表情を見るのがまた気持ちいい。

(樋渡)

同感です。人と人との新しいつながりができるな、ということは非常に強く感じます。

(増田)

リラックスして、良い面、ポジティブな面が出てくる場所です。

もともと本を読むということは、米国の心理学者マズローが唱えた「知的欲求」で、私に言わせると「自己実現欲求」です。「自分探し」と言ってもいい。人間の欲求の中でもかなり高い次元のものですよね。

そうした欲求を持った人たちがやってくる図書館という場所は、やはり神聖な部分があり、人間の良い面とつながっている空間なのだと思います。

また来たい場所へ

(樋渡)

あまり知られていませんが、日本中で図書館に全く行ったことがない人たちは、全体の8割ほどだと言われています。武雄市も例

(増田)

外ではありませんでした。これはもったいないことです。

武雄市の新しい図書館が持つ力は、他にはない価値を持っています。これだけの本があり、コーヒーを味わいながら、自分の頭の中にイメージーションを膨らませる。決してインターネットなどでは体験できない、リアルな感覚です。

武雄市長

樋渡啓祐

Hiwatashi Keisuke

(樋渡)

人間がアナログで良かったな、ということを感じていただけたと思います。現在はデジタル化が進んでいる時代ですが、ここに来れば、自分が本来持っている意味のよつなものを再確認できる。人間っていいよね、人に出会った方がいいよね、実物の本に触れるのっていいよねって。

(増田)

近くに、流鏑馬で有名な武雄神社があり、もうすぐ桜の花も咲きますし、御船山が目の前であって、空気がおいしくて。そんな環境の中で、本を読みながらテラスでコーヒーを飲む事ができて、これ以上の贅沢はあるでしょうか(笑)。

(樋渡)

いや、なかなかありませんよ。

(増田)

ここに入った時に感じる第一印象は「スゲー!」。この大きな空間でこんなことができてしまうのがすごい。

ただ、その「スゲー!」が第一印象で終わってはならない。市民の方一人ひとりが図書館にやって来て、「居心地が良くて、また来たい」と思っていただけのように続けていかなければならないんです。

出口で「また来たい」と思える空間を作るようにしようよ、とスタッフには話しました。それがうまくいけば、結果としてやって来る人も増えます。

帰り際「ありがと」と言ってもらえる場所にするための運営を考えよう、と今日あらためてスタッフに伝えました。

(以下、5月号に続く)